

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園「明日にむかって」編集委員会
発行日/2003年3月29日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

41号

3月20日、国際的な反戦運動の高まるなか、それを無視し、国連決議もないまま、超大国の横暴をむきだしにした、アメリカによるイラクへの攻撃が始まってしまいました。21世紀こそ戦争のない平和な世の中にと願っていたのに……。3月21日、保育園では第54回卒園式。子どもたちは胸をはって、精いっぱい身体で表現し、私たち大人を感動させてくれました。イラクの子どもたちは今どうしているのだろうと思いを馳せると、涙があふれ、「いのち」と「平和」の尊さを痛感します。査察の継続で平和的解決ができたのに、「イラクの自由のために攻撃する」などと、子どもだって判る嘘。この戦争は、即刻やめさせなくてはなりません。世界の人々と連帯して、みんなで声をあげよう! "NO WAR on IRAQ!" (T・R)

今こそ、子どもを 守らなければ

保育園に競争原理はいらない ・提言委員会を傍聴して

第12回「福祉サービス提供主体経営改革に関する提言委員会」(最終提言)が1月22日午後1時から1時間という短い時間で開催されました。この最終提言の開催日程は、ほんの数日前に東京都のホームページ上で形ばかりの告知が行われたという異常なものでした。緊急のことでしたが、陽光保育園からは後援会の清水長さんと徳留の二人が傍聴してきました。

安上がりの福祉の提言とは

提言委員会の冒頭20分ほどかけて行われた最終提言の内容は、もっぱら社会福祉法人の経営改革に照準が合わされ、都が補助金を削減しても、安上がりに「ヒト」(職員)を利用し、「モノ」(設備・教材等)や「カネ」(財務・収益計画)をうまく使い、「最大限がんばるのが使命」だとし、たうえで、生き残りのためのノウハウをあこれ示したものでした。具体的な手法としては、職員給与の人事考課の導入、能力給の導入、派遣職員の活用などをすすめています。あくまでも都が補助金を削減するための提言なのです。

そして、安上がりに福祉を提供しているという、いくつかの認証保育所と福祉施設が実例として紹介されました。ある認証保

「お別れ会」を開きました



3月11日、もうじき卒園するかもし組(5歳児)と全園児が参加して「お別れ会」が開かれました。かもし組は卒園式にも演じる荒馬踊りを力一杯踊り(写真上)、4歳児はなわとび(同中)、1歳児は魔法の杖(同下)を披露して拍手喝采をあびました。

育所では、子どもを顧客と呼び、競合他社を追い抜くプランが出されており、ある特養ホームでは、1999年に78%いた常勤職員を2001年には56・6%に削減して、「これでもできる」としています。

少子化対策は子ども本位に

都内に急増する認証保育所を調査すると、0歳児の1か月の保育料(実費等含む)が10万円を超えるところが53か所中4か所、8万円が12か所、平均5万9000円となっていて、所得の多少に関係なく徴収されます。また、効率的経営のノウハウのおかげで、保育士は低賃金で労働強化を強いられるため、職員の入れ代わりが激しいという実態もあるそうです。

東京の子どもたちがどのような環境でどのように育ってほしいか、その視点すらない提言委員会に保育を語る資格はないと思います。

1月25日の朝日新聞に、少子化に悩む秋田県は、来年度から「0歳児保育の無料化に踏み切る」という記事が載っていました。子どもを産みやすい環境を整えるのが狙いで、1億円を計上し、公立・私立・無認可を問わず実施すること。これこそ行政の行うべき本来の仕事ではないでしょうか。

提言委員の報告後、東京都福祉局は委員

子どものために、保育園の水準を下げないで!

●東京都厚生委員会を傍聴して

東京都の保育水準の向上を求めて、私たちは保育園の父母や地域の方々とともに、「東京の保育水準の向上を求める請願書」の署名運動に取り組んできました。1月31日、その請願が都の厚生委員会で審議されることになり、傍聴にいらしてきました。

都福祉局は、都が独自に進めている認証保育所事業を高く評価しています。保育園の利用者のニーズが多様化している現在、それに対応してさまざまなサービスを提供している認証保育所はすばらしいという見解です。たしかに子どもたちはいろいろな事情から保育園に入所していますが、都福祉局が繰り返している「利用者」という言葉に子どもの存在は感じられず、「利用者」「父母」という位置づけでしかないように思われました。

日中、保育園で過ごすのは子どもたちです。しかし、例えば今、駅型といわれる認証保育所の実態は、決して子どもによい環境とはいえません。認証保育所は認可保育所の基準より低くてもよいと、施設が狭く、園庭がないところがほとんどで、子どもたちが長時間遊び、生活するのは窮屈で、お散歩に出かけないところも多いと聞かれています。保育士も短時間のパートが多く、つなぎあわせて勤務しているため、子ども一人一人の気持ちを受けとめ、発達・成長を見守ってあげたいと思っても、それができない現状があります。

提言委員会の最後に、委員の一人が「都がこれを実施したら、全国にも学んでほしい」「公立保育園にも実施を検討中」と発言していました。私たちが学んでほしいと思

朝、子どもたちを受け入れる保育士は昼すぎには帰り、午前午後からかけての保育士が夕方帰ったあとは、夕方から来た保育士だけになってしまいうような状況では、子どもたちがどんなふうにならなってしまうのか、誰にもわからないことになってしまっています。子どもたちも、一日のなかで対応する大人が何人も替われば、なかなか気持ちを開くことができず、不安を抱えながら一日を過ごすことになりかねません。

今日描いた絵の続きを明日また描きたいと思う子どもの気持ちに共感して、「また明日ね」と、日々積み重ねていく保育士でありたいと私たちは思っています。子どもたちの成長とともに私たちも成長していきたいと思っています。

保育園は、子どもたちが健康に楽しく生活していく大切な場です。行政には、もっと子どもたちの立場から保育園のあり方を考えてほしいし、私たちももっと勉強しなければいけないと思いました。

厚生委員会での審議を聞いてみると、保育園や子どもを知らないで話し合っていてほしいことも多く、もっと現場を知ってほしいと思いました。その意味でも、知らせていく活動を今後も続けたいと思います。私たちが取り組んだ今回の請願は「保育園」になりました。これからも時間をかけ、慎重に話し合ってほしいものです。

(保育士 東城 史代)

保育のためのお金が 橋や道路に化ける!?

2002年10月30日、地方分権改革推進会議(首相の諮問機関)が提出した最終報告「事務・事業の在り方に関する意見」に、自主・自立の地域社会をめざして、「保育所運営費・施設整備費の「一般財源化」という言葉が突如出現しました。そして、12月24日に出された2003年度予算政府案では、障害児保育事業予算を一般財源化し、大幅カットするとされています。

現在国から補助金として出されている運営費は、保育所の運営費のみに当てられ、それ以外の使途は認められない「特定財源」という性格をもっています。これが一般財源化されると、使途は限定されず、各自治体の自由裁量にまかされることになり、そうなること、保育に対する理解の程度によって、自治体間で格差が生じることになり



親子でいっしょに遊びましょう

(リズム、うた、砂あそび)
散歩、赤ちゃん体操など

陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に月1回、「親子でいっしょに遊びましょう」の催しを行っています。同時に育児相談にも応じています。お気軽にご参加ください。無料です。

【対象】 0歳児～5歳児
【場所】 陽光保育園
【時間】 午前9時～11時

●2003年度の予定

4月16日(水) 5月8日(木) 6月4日(水)
7月8日(火) 9月5日(金) 9月30日(火)
10月22日(水) 11月5日(水) 12月10日(水)
1月14日(水) 2月13日(金) 3月2日(水)

●事前にご連絡のうえ、活動しやすい服装でご参加ください。 ☎3956-1068

児童福祉法第2条では、国および地方公共団体は、児童の保護者とともに児童を心身ともに健やかに育成する責任を負うと明記されています。しかし、保育所運営費が一般財源化されると、そのお金が「橋」や「道路」に使われたいとも限らず、もしそんなことになれば、国や地方自治体は児童を育成する義務を放棄したことになります。子どもが健やかに育たなければ、日本の未来に希望はありません。日本は公共事業にばかりお金を使い、90年代の10年間で膨大な負債を抱えました。しかし政府は公共事業の見直しは行わず、福祉を削っていく一方で、不況で国民の生活が苦しい今こそ福祉を充実させていくことが大事なのではないでしょうか。(保育士 植野 雪子)

こあんない

◆陽光保育園後援会交流会
とき 4月29日(火・祝) 11時
場所 平和公園(東武東上線板橋駅 徒歩5分、教育科学館そば)
*今年から城北公園でのお花見のかわりに平和公園でパーベキュー大会を開くことになりました。お皿と箸、コップを持って、ぜひ平和公園まで足をのびしてください。

◆陽光保育園後援会総会
とき 5月24日(土) 18時30分
場所 陽光保育園ホール
◆夏のバザー
とき 7月6日(日) 10時～14時
場所 陽光保育園



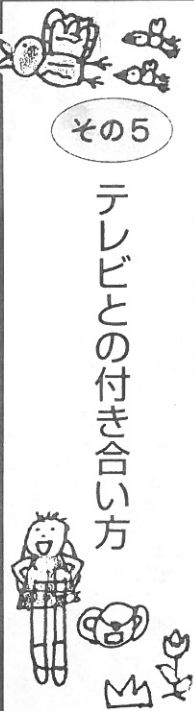
【園児募集】

0歳児11名/4歳児12名/5歳児11名
*入園のお問い合わせ、お申し込みは、板橋区児童女性部保育課まで。

ヒトが人間になるとき

その5

テレビとの付き合い方



最近、言葉による指示が伝わらないとか、人との関わりが苦手な子どものことが話題になり、心配されていますが、その原因のひとつとしてあげられているのがテレビやビデオ。あるいはテレビゲームなどの一方通行のメディアです。今回は、こういったメディアとどのように付き合い合っていくのかを、皆さんといっしょに考えてみることにしました。人それぞれにさまざまな考え方がありますが、二十代の若い保育士と年長クラスの児童のお母さんに寄稿していただきましたので、ご紹介いたします。これをきっかけに、いろいろな場面で話し合っていきましょう。

豊かな感性を育てるために



保育士
菊池 久美子

テレビといえば、今は主に報道番組やドラマを見ている私も、幼いときはアニメ番組に夢中でした。「はだしのフロアー」や「きん肉マン」、日曜日の朝には「ファイブマン」などの戦隊ものも見ていた記憶があります。曜日ごとに何の番組があるかを覚えていて、それは楽しみにしていたものです。しかし、だからといってテレビ三昧の生活をしていただけではありません。

仙台に住んでいた幼少時代は、地域が安全だったということもあり、5時や6時の鐘が鳴るまで友達と外で走り回っていました。そして夕飯ができるまでのとお腹すく時間には、母に邪魔者扱いされながらもテレビを見て過ごした記憶があります。夕飯の支度ができるとともにテレビは消され、食事が始まります。その時間帯は大体アニメのクライマックスで、テレビの電源が切られることに、どんなに腹を立てたことか！食事がケンカで始まることもあり



東京としては珍しい大雪の降った日、とんぼ組(3歳児)のみんなで作った雪だるまを囲んで

豊かな感性は人との関わりのおかげ

日々の生活の中で目的もないのについているテレビ。一見、集中しているようにも見えるけど、多くは動いていく映像を追っているだけのことが多いのです。時に映像はこちらに訴えかけてくることもあります。純粋な子どもは懸命に返事をしますが、テレビはそれに答えてはくれません。話しかけても返事は返ってこない、テレビとは会話ができません。

これが毎日何時間も続くと、会話のキャッチボール、つまりコミュニケーションができなくなり、友達との関わりや人間関係において弊害が出てくるようになります。そうならないためには、無意味にテレビをつけたいのではなく、大切なテレビを見ながら、楽しい、うれしいといった思いが共感できるよう、せめて大人が子どもと一緒に見るようにしたいのです。

複雑な心のヒダは3歳ころから育つといわれますが、ハンディをもった3歳児のY君が病気が重くなって入院してしまつたときのことです。いちばん仲のよかったS君は、Y君が登園してくることを毎日心待ちにしていました。Y君はS君が着ていたトレーナーのキャラクターがお気に入り、そのトレーナーを見るたびに指をさして喜んでいたので、それを思い出したS君

は、登園したY君が少しでも喜んでくれるよう、毎朝そのトレーナーを着たがりました。気持ちいお母さんが夜のうちにそのトレーナーを洗濯すると、S君は次の日に着るために、一人でストーブの前で乾かしていたそうです。Y君が登園するまで毎日これが続きました。

子どもへの影響、子どもの認識

S君の気持ちを受けとめたお母さんもすばらしいですが、人と人との関わりあいで芽生えた幼いなりの思いには涙が出るほど感動します。このような感情はテレビを見ただけでは絶対に生まれてきません。

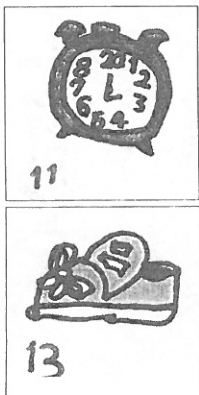
テレビなんかいららない!



5歳児クラス・成佳の母
田中 さおり

「テレビばかりだから見て!」と、子どものころよく親から言われた気がする。同じような言葉を今は、自分が我が子に言っている。こんな私から注意されても聞かないよなあと、心底思う。ただ、私が言う言葉は「テレビゲームばかりやって!」に変わってはいるのだが……。

今年中学に入る長男は、やはりテレビゲームに熱中していた。外で力いっぱい遊び、家では力いっぱいテレビゲームに熱中していた。私はというと、いつもそれでキレていた。しかしあるとき、その長男が、「中学生になるから」と、自分の部屋からゲームを撤去した。長男みずから、である。教科書が隅に押しやられ、ゲーム用品一式でいっぱいだった机の上がきれいさっぱり片付けられていた。まあ、それには我が家のいろいろな事情があるのだが(長くなるので省略)、とにかく彼は他にやるべきことが見つかり、子どもながらに決心したわけである。あれほど目くらまを立てていた私も、急に肩の力が抜けた。子どもは勝手に成長しているものだ。



成佳ちゃん(5歳児)の作った絵カードより。工作は、テレビを見るよりうんと楽しいという

とどうでしょうか。

ある保育園で、朝、園長が出勤すると、飼っていたガチョウが死んでいて、その周りに石がころがっていったそうです。「誰が石を投げたの?」と聞いたところ、「僕たちだよ」と年長児の数人。「どうしてこんなことをしたの?」「大丈夫だよ、リセットすればまた生き返るよ」と答えたり。子どもはこのような形で認識していきます。生活の一部になっていくテレビ。頭ごなしに見ることに反対しているわけではありませんが、テレビとうまく付き合い合っていくためには、見る時間を決め、見せる番組を選ぶことが大切です。テレビを見るだけでなく、本を読んだり、家族がお互いに関わるゲームをするなど、家族が互いに関わるスタイルを生活のベースにしたいものです。

いうと、テレビゲームにはまったく興味は示さず、毎日毎日、紙工作に没頭している。紙に絵を描き造作するのだが、感心するほど熱中している。「テレビを見るよりおもしろい」のだそうだ。部屋はいつも、切り刻んだ紙で足の踏み場もないのだが、娘と二人、あれこれ言い合いながら絵を描けるのもあと何年だろう。テレビのスイッチを切って、今日も紙を切っている私である。

平和を祈る

戦争と私

前原 芳子 (板橋在住)

1945(昭和20)年3月10日の夜、北区に住んでいた私は、本所深川方面の空襲で空が真っ赤に染まっているのを、隣組の人たちと震えながら見ていた。そのとき私は15歳だった。

「次はこの辺がやられる」と父が言ったとおり、4月13日の空襲では、北区、豊島区、板橋区の一部を残して焼け野原と化した。焼夷弾の落ちるなかを、日頃から隣組で申し合わせていた外語大のグラウンドにある防空壕に向かったが、すでにそこは人でいっぱい、危険だからと警防団の指示に従って王子の飛鳥山へと逃げた。しかし、そこもすでに火の海で、大勢の人がこちらに逃げてきた。その人の波に巻き込まれ、押されるようにして西巢鴨の大正大学に避難し、どうにか助かった。

朝になって警戒警報が解除になり、母とともに我が家へと向かった。帰途、小高い丘のようになったところから我が家のほうを見下ろして愕然とした。足がすくみ、動けなくなった。一面の焼け野原に立ち木がくすぶり、まだあちこちから火の手が上がり煙が立ちのぼっている。その光景は今でも目に焼き付いて離れないし、思い出すたびに、恐ろしさに身震いしたそのときの感情もよみがえってくる。

当時の学生は勉強どころではなく、私たちも多分にもれず、飛行機の部品をつくる荒川区町屋の工場に動員されていた。少国民として「お国のために」「欲しがりません、勝つまでは」のスローガンを素直に信じ、懸命に働いていた。早稲田一三の輪間を走る都電は当時は市電といわれ、警戒警報が鳴ると運転が止まるため、私は仲のよかった友達と手をつないで線路の枕木の上を歩いて家路についた。「勝利の日まで」と歌いながら励ましあって暗いなかを歩いていると、必ずといっていいほど飛鳥山の坂にかかるころに空襲警報が鳴った。そのたびに飛鳥山の防空壕に飛び込んで、友達と二人ひとりと抱き合った。「今度こそ死んでしまうのでは」と何度思ったことか。

その年の夏、敗戦を迎えた。それまで正しいと教えられていたことはすべて覆され、周囲は一変した。これから何を信じていけばいいのかと、私は不安でいっぱいになった。今でも当時の友達と交流していて、そのころのことがよく話題にのぼる。そして必ず思うのは、「子どもや孫たちには絶対にこのような目にあわせたくない」ということ。「どんなことがあっても“平和”を守らなければ」と祈る思いである。

お父さんの出番です!!

そのほかに子どもを迎えにくく……。そして家事の手伝いや子どもたちとの遊びのほうに力を注いだ。

そう、それまで何事も妻まかせであった私が初めて保育園に送っていったときのことを思い出す。別れを惜しむ娘の姿を想像して、少しクククしながらいざ到着。初めてで戸惑う私に、「これはココに置いて、これはココだよ。わかった? わかったらもう行っていいよ。じゃーね。バイバイ」と、娘は駆け足で友達の輪の中に消えていき、逆にこちらが別れを惜しんでいた。トホホと思いつつも、「恥ずかしがり屋で、ちゃんと友達と遊べているかと心配していたのに、なんと成長したもんだ。友達が大好きなんだな」と感じさせてくれた一瞬であった。小学四年生の兄、耕平(現在スノーボードに夢中。私より若干うまい。そのうち抜く予定)は今、娘のよき遊び仲間である。兄の影響もあってか娘はサッカーが大好き。「保育園で何して遊んだ?」と聞くと、答はいつも「サッカー」である。遊びといえば自分なりに少し哲学があり、まずは極めるより楽しむのである。これまで、スキー、ラフティング、キャンプなどを子どもたちと一緒に楽しんだ。何歳まで付き合い合ってくれるかはわからないが、今後も一緒に続けたい。遊びもスポーツもどんならいいかなとチャレンジし、楽しんでいくなか、これはと思うものがあれば、とことんやってみたいという。そんなときは父さんの出番。めっちゃくちゃ応援するつもりだ。うまくなるには、素質も大切だが、もっと大切なのは努力である。これからは大人になってからも一生懸命な気持ちで大切にしていこう。

(5歳児クラス・美央の父) 東福 明夫

まずは楽しむ、そして極める

「お父さんの出番です!!」このタイトルは、保育園の送り迎えの回数も片手の指で足りてしまう自分には、少し荷が重いような気がしたが、自分にとって子育てとは何かを考えてみるよい機会だ。「一月中ずっと考えよう。それにまだ一月あるし……」。この考えが甘かった。現在、締め切り一日前の午前一時。眠気を振り払い、ガンバろう。

そんなわけで、保育園に縁遠い私は、園の行事にはなるべく参加した。運動会、バザー、交流会、父母の会の幹事会に子どもを迎えにくく……。そして家事の手伝いや子どもたちとの遊びのほうに力を注いだ。